

第1回 緊急時水循環機能障害リスク検討委員会
－議事概要－

【委員からの主な意見】

- ・ 個別の課題ではなく、各分野の連携が必要な課題、新しく考えられる課題を出して、議論したい。
- ・ 緊急時における水リスクに対しては、上下水道のみではなく、河川及び地下水も含めた総合的な対策を検討する必要がある。
- ・ 想定するシナリオが重要である。緊急時に上下水道施設が被災し、そこからどのようなものが流出する恐れがあるか。また、上下水道施設からだけではなく、特定事業場から有害物質が流出した場合、分流式下水道地区では雨水管渠から直接河川等の公共用水域に流出する恐れもあるので、様々なシナリオを想定すべきである。
- ・ 地下水は地形・地質により様々である。現在、利用可能な井戸（地下水）をできるだけ把握し、水質面（特に浅井戸）に配慮して緊急時における地下水利用の可能性について検討すべきである。また、緊急時に下水管渠の破損による地下水汚染の恐れも考えられる。
- ・ リスクシナリオは、事前の準備のためのものと、災害発生時にそれをどう乗り越えるかというシナリオの2つがあり、これらの対策をどのように展開していくかをまとめることが必要になると考えられる。
- ・ 事後のシナリオで動くのは、「人」・「情報」・「モノ」・「技術」であり、これらの点を考慮して対策を検討すべきである。上下水道・河川・水資源の各分野の枠を超えた、各自治体ができる対策を検討すべきである。また、流域が単位ではなく、広域的に国が担うべき方策がまとまれば、大きな成果だと思う。
- ・ モデル地区の検討については、今後何を具体的に検討するかを明確にしてほしい。流域として考えるのか、限定した地域（市町村単位）として考えるのか、についても検討方針を整理してほしい。
- ・ 災害発生後、上水道や下水道の各施設の特性により復旧の進捗が異なるので、各施設の復旧度合に配慮した段階的な対策を検討してほしい。
- ・ 災害が発生した場合、上下流で対立が起こるのではないかと懸念している。下水道は地元の要求に応えるべく下水を取り込まざるを得ないが、この場合未処理放流等により下流への影響が懸念される。緊急時において、上下流の自治体で各対策を調整する仕組みが必要なのではないか。水道使用の制限（飲料は禁止するが、その他雑用水の利用は許容するなど）はできないか。
- ・ どこをどのように優先順位をつけて復旧させるのかが難しい。下水管の破損により汚水の流下が不能となった場合、東京都内ではバキュームカーを調達することができない。また、下水道が機能不全に陥ると、住民生活だけでなく、事務所・事業場等の産業活動がマヒすることも大きな問題である。
- ・ 緊急時の対策シナリオを検討する上で、水に関するリスクとして何が重要である

のかを明確にする必要がある。伝染病が発生するような大変な事態も考えられる。平常時には安心していられても、何が壊れると大変なことになるのかということを考えればよいのではないか。災害時つまり非定常時における水循環機能が不能になった場合の対応策がまとまれば、平常時のあるべき水循環の姿も見えてくると思う。